

平成27年12月4日公表

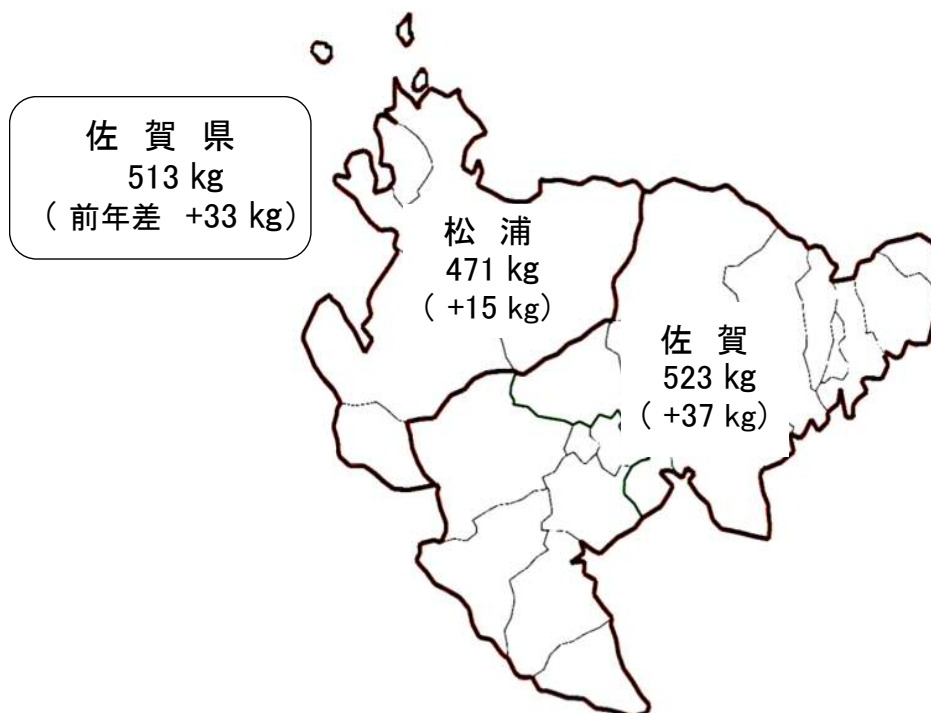
平成27年産水稻の収穫量(佐賀)

－ 10 a 当たり収量は513kg (前年産に比べ33kg増加)
収穫量(子実用)は12万9,800 t (前年産に比べ6,900 t 増加) －

【調査結果の概要】

- 1 平成27年産水稻の10 a 当たり収量は513kg (前年産に比べ33kg増加)となりました。
- 2 水稻の作付面積(子実用)は2万5,300haで、収穫量(子実用)は12万9,800 t (前年産に比べ6,900 t 増加)となりました。
また、主食用作付面積に10 a 当たり収量を乗じた収穫量(主食用)は12万8,300 t (前年産に比べ6,900 t 増加)となりました。

図1 作柄表示地帯別10 a 当たり収量



- 作付面積(子実用)とは、青刈り面積(飼料用米等を含む。)を除いた面積です。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積を除いた面積です。
- 10 a 当たり収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は3ページを参照してください。

この資料は九州農政局ホームページ「佐賀県の地域農政情報」でご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/kyusyu/saga/index.html> 】

【調査結果】

1 作柄概況

平成27年産佐賀県の水稲の作柄は、全もみ数が「やや少ない」で、登熟は「平年並み」となり、10 a 当たり収量は平年並みの513kg（前年産に比べ33kg増加）となりました。

(1) 佐賀地帯

穂数は、6月から7月中旬までの日照不足により「やや少ない」となりました。

1穂当たりもみ数は、7月下旬から8月中旬まで好天に恵まれたことから「やや多い」となり、全もみ数は「やや少ない」となりました。

登熟は、8月下旬から9月中旬まで日照不足となったものの、9月中旬以降好天に恵まれたことから「平年並み」となりました。

以上のことから、10 a 当たり収量は平年並みの523kg（前年産に比べ37kg増加）となりました。

(2) 松浦地帯

穂数は、6月から7月中旬までの日照不足により「やや少ない」となりました。

1穂当たりもみ数は、7月下旬から8月中旬まで好天に恵まれたことから「やや多い」となり、全もみ数は「平年並み」となりました。

登熟は、主力品種である早生種が8月下旬から9月中旬までの日照不足の影響を受けたことから「やや不良」となりました。

以上のことから、10 a 当たり収量はやや不良の471kg（前年産に比べ15kg増加）となりました。

2 収穫量

収穫量（子実用）は12万9,800 t で、前年産に比べ6,900 t（6%）増加しました。

また、主食用作付面積に10 a 当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は12万8,300 t で、前年産に比べ6,900 t 増加しました。

3 被害状況

気象被害では、日照不足により生育が抑制されました。

病虫害では、日照不足によりいもち病が発生しました。

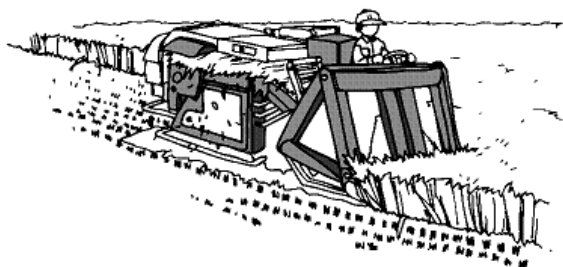


表1 平成27年産水稻の作付面積及び収穫量

区分	作付面積（子実用）			10a当たり収量	
	実数 ①	前年産との比較		実数 ②	前年産との比較 対差
		対差	対比		
佐賀県	25,300 ^{ha}	△300 ^{ha}	99%	513 ^{kg}	33 ^{kg}

区分	収穫量（子実用）			参 考	
	実数 ③=①×②	前年産との比較		主食用 作付面積 ④	収穫量 （主食用） ⑤=④×②
		対差	対比		
佐賀県	129,800 ^t	6,900 ^t	106%	25,000 ^{ha}	128,300 ^t

注： 10a 当たり予想収量②は、1.70mmふるい目幅で選別された玄米の数量です。

表2 平成27年産水稻の作柄概況

区分	10a 当たり 収量 ①	（参考）農家等が使用している ふるい目幅で選別			平 年 比 較			
		10a 当たり 収量 ②	10a 当たり 平年収量 ③	作況指数 ④=②/③	穂数の多少	1穂当たり もみ数の 多 少	全もみ数 の 多 少	登熟の良否
県平均	513	496	502	99	やや少ない	やや多い	やや少ない	平年並み
佐賀	523	505	510	99	やや少ない	やや多い	やや少ない	平年並み
松浦	471	458	470	97	やや少ない	やや多い	平年並み	やや不良

注：（参考）の農家等が使用しているふるい目幅で選別された②10a 当たり収量、③10a 当たり平年収量及び④作況指数は、九州においては1.80mm以上に選別された玄米を基に算出した値です。

表3 平成27年産水稻の刈取期

区分	刈 取 期						
	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較			
				対平年差	対前年差		
県平均	9. 1	10. 14	11. 4	4 日 遅	1 日 遅		
佐賀	9. 22	10. 16	11. 5	4 日 遅	並 み		
松浦	8. 20	10. 3	10. 24	7 日 遅	4 日 遅		

注： 刈取期の始期とは刈取済面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日です。

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

表4 水稻の年次別推移（佐賀県）

年 産	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収 穫 量 (子実用)	参 考		
				主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成元年産	35,900	535	192,100	…	…	103
2	35,300	516	182,100	…	…	100
3	34,900	333	116,200	…	…	64
4	36,800	521	191,700	…	…	101
5	36,800	385	141,700	…	…	74
6	39,400	568	223,800	…	…	110
7	37,700	535	201,700	…	…	103
8	34,800	546	190,000	…	…	105
9	34,400	496	170,600	…	…	96
10	31,500	539	169,800	…	…	104
11	31,400	444	139,400	…	…	86
12	31,000	536	166,200	…	…	102
13	28,700	544	156,100	…	…	104
14	28,600	533	152,400	…	…	101
15	28,400	500	142,000	…	…	95
16	29,300	422	123,600	…	…	80
17	29,500	491	144,800	…	…	93
18	29,000	262	76,000	…	…	49
19	28,100	504	141,600	…	…	95
20	26,900	517	139,100	26,700	138,000	98
21	26,900	527	141,800	26,800	141,200	100
22	27,800	493	137,100	27,700	136,600	94
23	26,600	531	141,200	26,400	140,200	101
24	26,600	509	135,400	26,400	134,400	97
25	26,700	489	130,600	26,400	129,100	93
26	25,600	480	122,900	25,300	121,400	92
27	25,300	513	129,800	25,000	128,300	99

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 注：1 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。
- 2 作況指数においては、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上で選別された玄米重を基に算出した数値で、本年産（平成27年産）は農家等が使用しているふるい目幅である1.80mm以上（九州）で選別された玄米を基に算出した数値です。
- 3 「…」は事実不詳又は調査を欠くことを示しています。

表5 ふるい目幅別重量分布状況

単位：％

県平均 地帯別	区 分	計	1.70～ 1.75mm	1.75～ 1.80	1.80～ 1.85	1.85～ 1.90	1.90～ 2.00	2.00mm 以 上
県平均	重量割合	100.0	1.3	2.1	2.7	3.3	16.0	74.6
	平均値	100.0	1.2	1.8	2.7	3.4	17.7	73.2
	対平均差	0.0	0.1	0.3	0.0	△ 0.1	△ 1.7	1.4
佐賀	重量割合	100.0	1.3	2.2	2.8	3.4	16.3	74.0
	平均値	100.0	1.3	1.9	2.8	3.6	18.0	72.4
	対平均差	0.0	0.0	0.3	0.0	△ 0.2	△ 1.7	1.6
松浦	重量割合	100.0	1.1	1.7	2.2	2.6	14.5	77.9
	平均値	100.0	1.0	1.5	2.1	2.9	16.8	75.7
	対平均差	0.0	0.1	0.2	0.1	△ 0.3	△ 2.3	2.2

注：1 対平均差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値です。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

表6 ふるい目幅別10a当たり収量及び収穫量

県平均 地帯別	区 分	ふるい目幅別					
		1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
県平均	10a 当たり収量 (kg)	513	506	496	482	465	383
	収 穫 量 (t)	129,800	128,100	125,400	121,900	117,600	96,800
佐賀	10a 当たり収量 (kg)	523	516	505	490	472	387
松浦	10a 当たり収量 (kg)	471	466	458	447	435	367

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。

表7 農家等が使用したふるい目幅の分布

単位：％

区 分	合計	1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm 以 上
佐賀県	100.0	-	-	0.5	54.8	44.7	-

注：この表は水稻作況標本（基準）筆農家を使用したふるい目幅別の農家数割合を示したものです。

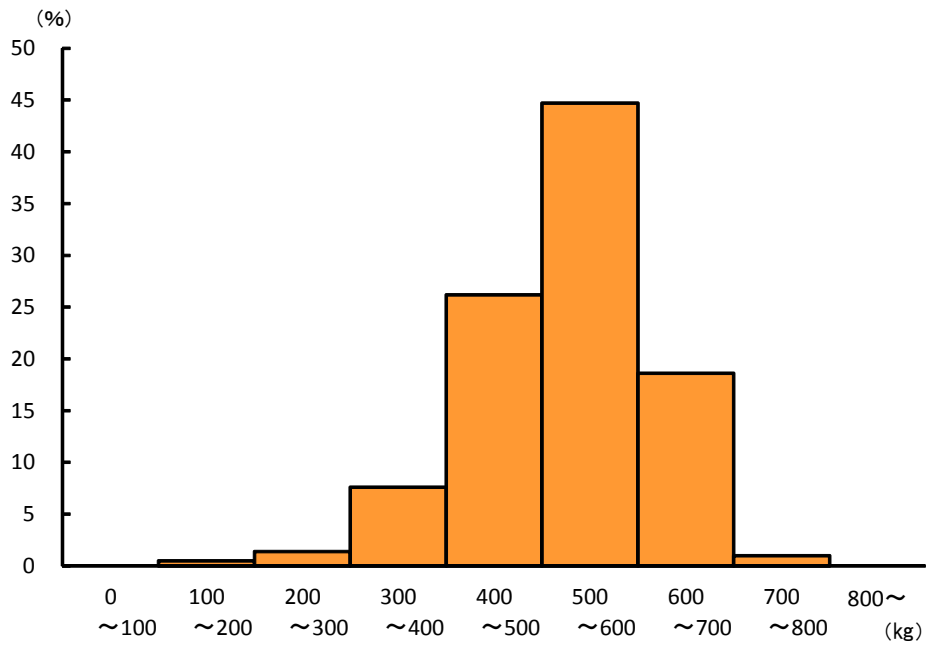
表 8 10 a 当たり玄米重の分布状況

単位：%

区 分		計	100kg未満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700 ～800	800kg以上
佐賀県	筆数割合	100.0	-	0.5	1.4	7.6	26.2	44.7	18.6	1.0	-

注：10 a 当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

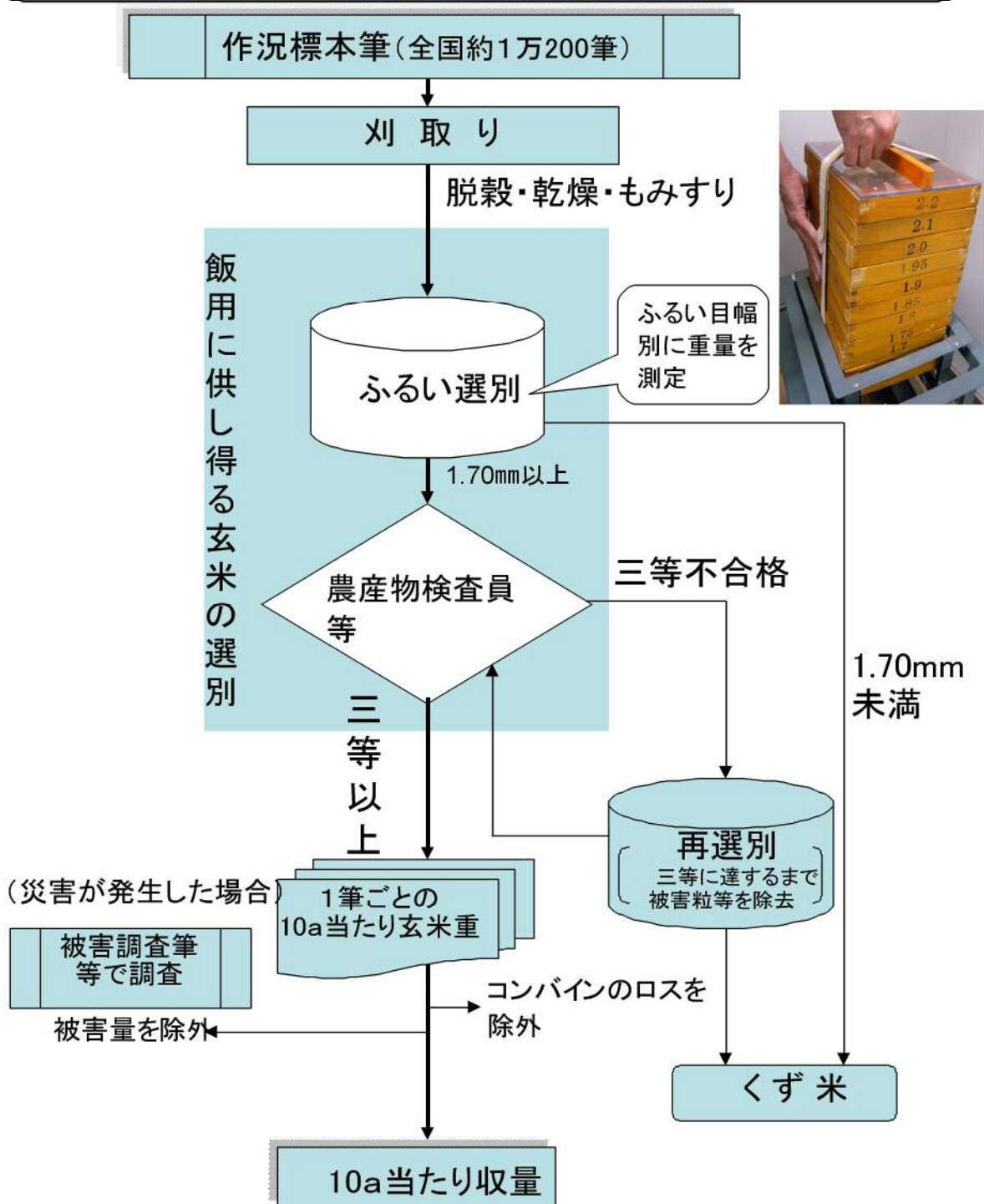
図 2 10 a 当たり玄米重の分布状況



【参考1】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆(【参考2】参照)ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格規程に定める三等の品位(整粒歩合45%)以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています(下図参照)。

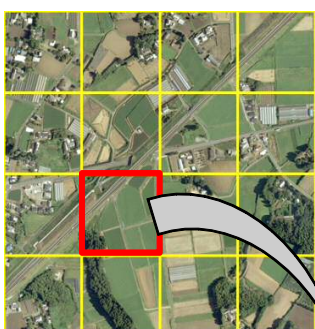


【参考2】

ふで
作況標本筆とは

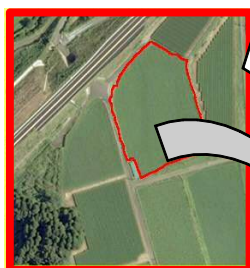
ふで
収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆(1枚のほ場を筆と呼ぶ。)は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて以下のよう
に各地で選定し(全国で約1万200筆)調査しています。

全国の全ての土地
(母集団)



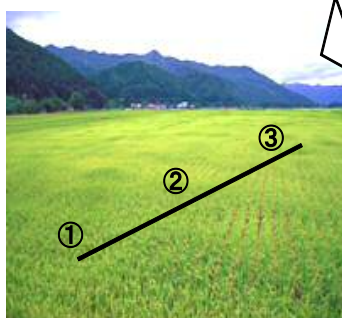
- ① 全国の全ての土地を200m四方(北海道は、400m四方)に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法(人間の恣意を排したくじ引きのような選び方)により「標本単位区」を選んでいます。

標本単位区
(200m四方の土地)



- ② 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としています。

作況標本筆
(全国で約1万200筆)



- ③ 各作況標本筆の対角線上の3か所(①、②、③)を実測調査箇所として、サンプル採取(坪刈り)を行っています。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び稲調査の水稲収穫量調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況・収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査対象数

- (1) 作付面積調査
標本単位区：760単位区 巡回・見積り：20市町
- (2) 収穫量調査
作況標本筆調査：210筆 作況基準筆調査：5筆 巡回・見積り：20市町

3 調査事項

- (1) 作付面積調査：作付面積
- (2) 収穫量調査：登熟状況、10a当たり収量、被害及び耕種条件等

4 調査期日

- (1) 作付面積調査：7月15日現在
- (2) 収穫量調査：収穫期

5 調査方法

- (1) 作付面積調査
標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査及び職員による巡回・見積りにより行いました。
- (2) 収穫量調査
職員及び統計調査員による、作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査並びに巡回・見積りにより行いました。

6 集計方法

- (1) 作付面積調査
対地標本実測調査結果を集計し、巡回・見積り結果により補完して取りまとめました。
- (2) 収穫量調査
調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、巡回・見積りにより補完して取りまとめました。

7 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。
- (2) 「穂数の多少」とは、1㎡あたりに出穂した全ての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (3) 「1穂あたりもみ数の多少」とは、1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (4) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

(5) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。

(6) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり穂数等）の平年値との比較です。

多 少 (良 否)	少 ない (不良)	やや少ない (やや不良)	平年並み	やや多い (やや良)	多い (良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

(7) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率をいいます。

なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産からは、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（九州では1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

(8) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいいます。

8 その他

(1) この資料の詳細はホームページに掲載（平成28年2月予定）するとともに、その後発刊する『耕地及び作付面積統計』及び『作物統計』に掲載します。

(2) 統計数値については、下記の方法で四捨五入しています。

原 数	7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）	3 桁	2 桁		1 桁	四捨五入しない
例					
四捨五入する前（原数）	1, 234, 567	123, 456	12, 345	1, 234	123
四捨五入した後（統計数値）	1, 235, 000	123, 500	12, 300	1, 230	123

(3) 作柄表示地帯

区 分	作 柄 表 示 地 帯 に 包 括 さ れ る 市 町 名
佐 賀	佐賀市、鳥栖市、多久市、武雄市、鹿島市、小城市、嬉野市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき町、大町町、江北町、白石町、太良町
松 浦	唐津市、伊万里市、玄海町、有田町

【関連リンク】

農林水産省ホームページ

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

九州農政局ホームページ

【 <http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/> 】

問い合わせ

◎農林水産統計調査結果について
九州農政局佐賀支局
統計チーム

TEL : 0952-26-4138

FAX : 0952-25-1825